

CONTENTS

1. 教科書に掲載されました _____ 1
 2. 令和5年度全道漁協漁場環境保全研修会に参加して _____ 2
 3. 漁業系廃プラスチックの処理状況調査報告 _____ 3
 4. 海と渚クリーンアップ活動（海浜清掃活動）報告 _____ 7
- 令和5年度海の羽根募金・あとがき _____ 12

<http://www.umitonagisa.or.jp>

公益財団法人 海と渚環境美化・油濁対策機構

発行者 公益財団法人 海と渚環境美化・油濁対策機構
〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-24 湯島ペアービル7F
TEL 03-5800-0130 FAX 03-5800-0131
E-mail info@umitonagisa.or.jp

×(旧Twitter)フォロー
お願いします

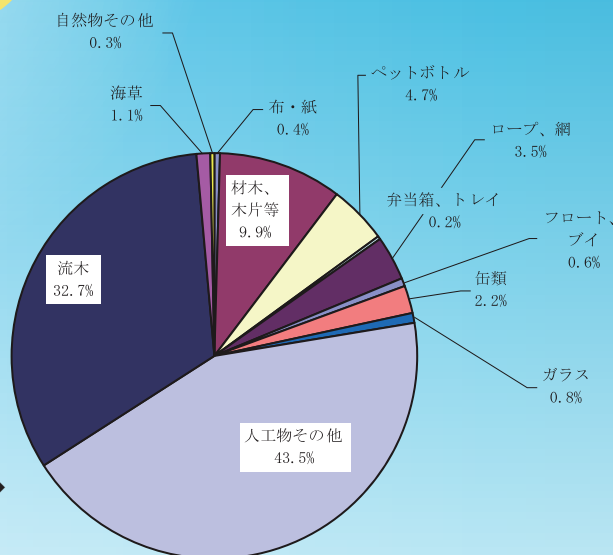


1. 当機構の事業内容と報告書の一部が教科書に掲載されました ～ボランティア活動と環境保全～

前身のマリンブルー21の設立以来、都道府県に調査のご協力をお願いして取りまとめを続けている「**全国海浜等清掃実施状況調査**」のデータ(グラフ)が、全国の水産高校で使用される教科書に掲載されました。



教科書に掲載された図 ➡
(当機構報告書から添付)



ごみの種類別割合(全体)

掲載していただいたのは海文堂出版発行の「海洋環境」。この教科書は海洋の環境、関連産業、自然災害について学ぶ内容になっています。中には「廃棄漁具とゴーストフィッシング」について記載している節もあり、大変勉強になります。

2年程前に教科書の作成をされている先生から報告書のグラフを水産高校の教科書に掲載したいと連絡を受けたときは連絡内容を3回確認しました。その後で文部科学省から連絡がありましたので、本当なんだと思いました。

その後は原稿のやり取りです。

僭越ながら文面を何度か修正させていただきました。教科書の文書は、高校生の人生に影響を与えるのですから当然なのですが、修正文をお送りすると細やかなお返事をいただき、1冊の教科書に文部科学省のご担当者は一体何十人

の方とこんなやり取りをされているのだろーと考えると、学生時代に教科書を雑に扱ったことを申し訳なく思いました。

掲載ページには当機構の内容も紹介されており、合併前の「マリブルー21」という懐かしい名前も掲載されています。図らずも、長年に亘り都道府県から頂戴している御支援・御協力を、このような形で紹介することができ、大変嬉しく感じています。今後も、当機構は、海洋と内水面（湖沼・河川）の環境保全のため、清掃活動の推進と普及に取り組んでまいりますので、皆様の御支援と御協力をお願いします。

次は「漁民の森活動」の報告書が教科書に掲載されないかと少し欲張りなことが頭をよぎりました。漁業者が森・川・海のつながりを考えて活動していることを高校生に知ってもらいたいと思います。(福田)

2. 令和5年度全道漁協漁場環境保全研修会に参加して

日 時：令和6年2月20日 午前9:00～12:00

場 所：北海道第2水産ビル

主催者：北海道漁業環境保全対策本部、全国豊かな海づくり推進協会

今回は表題のとおり、去る2月20日に北海道札幌市で開催された「令和5年度全道漁協漁場環境保全研修会」に参加させていただいたので、簡単にその概要を御紹介させていただきます。

研修会当日、私は2人の講師のうち1人として参加させていただきました。もう1人の講師の方は「特定非営利活動法人ブルーカーボン・ネットワーク」の枝廣理事長様で、「地球温暖化とブルーカーボン」の演題で講演され、とても興味深く、ためになるお話でした。

一方、翻って私の講演内容ですが、当機構で長年に亘って取り組んできている海洋プラスチック、特に漁業系海洋プラスチックについて、「海洋プラスチックの現状と、漁業者に求められること」と題して、一般社会から見た漁業系プラスチックに対する評価とその背景、我が国周辺海域における海洋プラスチックと漁業系プラスチックの現状、海洋プラスチックが時間の経過とともに、どのような変遷を辿るのか、さらには漁業者自身が実行できる

海洋プラスチック対策などを、現場目線でお話をさせていただきました。

その中で、私が研修会参加者に特にお伝えしたかったのは、漁業系海洋プラスチックの海洋への排出量についてみると、世界の漁業者、そして周辺諸国の漁業者と比較して、日本の漁業者は「とてもお行儀が良い」、即ちとても少ないということです。これは自信を持って良いことです。

ただ、更に漁業系海洋プラスチックの排出量を減らすために日本の漁業者が行うこと、出来ることはまだまだ多くあることも強調させていただきました。私のお話、真意が、参加者（約100人）に少しでも届いていれば、望外の喜びです。

（坂本）



3. 漁業系廃プラスチックの処理状況調査報告

この調査報告は平成29年の漁具の購入処理などについて全国漁業協同組合連合会が調査(アンケート)したものです。

調査対象は漁業協同組合及び支所となっています。調査対象資材は漁業活動において使用されるプラスチック製の資材。いわゆる漁業系プラスチックです。

調査対象期間は平成29年4月～平成30年3月で

した。

調査内容は(1)購入・処理・紛失状況、(2)紛失・流出について、(3)プラスチック資材の3Rの取組について、(4)漁業系廃棄物に係る協議会等の状況についてです。

以下は全国の漁業協同組合及び支所から寄せられたアンケートの回答をとりまとめ、整理・分析したものです。

1 漁具の購入・処理・紛失状況

漁業種類ごとの漁具購入量を下の表に示します。

漁業種類ごとの購入量

(重量%)

	標本数	漁網等	フロート・ブイ・浮子等	ロープ・テグス等	魚箱等	合計
小型底びき	799	7	1	12	80	100
船びき	214	53	10	17	20	100
中小まき	51	78	1	19	2	100
他刺網	51	51	4	16	29	100
棒受	29	98	2	0	0	100
大定置	152	46	5	23	25	100
さけ定置	82	73	4	23	0	100
小型定置	723	23	2	16	59	100
沿岸まぐろ	88	0	6	4	90	100
他はえ縄	374	1	14	29	56	100
沿岸いか	289	0	0	1	99	100
ひき縄	177	0	0	46	53	100
他釣	797	0	1	9	90	100
採貝等	402	3	2	51	44	100
かご筒	322	59	2	28	11	100

この表から漁網等の比率が高い漁業種類は棒受・中小まき・さけ定置、魚箱等が多いのは沿岸まぐろ、沿岸いか、他釣りが90%を占めていました。また、ロープ・テグス等はひき縄・採貝で多くなっています。一方、購入重量で見ると、下の表から、サケ定置は

漁網、フロート・ブイ・浮子等及びロープ・テグス等を全漁業種類中で最も多く購入しています。また、魚箱等は小型底びき、小型定置及び沿岸いかで購入量が多くなっています。

平成29年漁船漁業及び定置漁業における1ヶ統当たりの漁具購入量

(kg)

漁業種類	漁網等	フロート・ブイ・浮子等	ロープ・テグス等	魚箱等	合計
小型底びき	22.8	3.4	38.8	259.6	324.6
船びき	67.6	12.7	21.6	26.2	128.0
中小まき	123.5	2.1	30.0	2.6	158.2
他刺網	82.4	5.9	25.1	47.2	160.6
棒受	344.8	6.6	0.0	0.0	351.4

漁業種類	漁網等	フロート・ブイ・浮子等	ロープ・テグス等	魚箱等	合計
大定置	284.7	31.3	143.5	153.2	612.7
さけ定置	2,719.5	146.0	845.9	15.8	3,727.2
小型定置	101.5	9.0	68.0	255.8	434.3
沿岸まぐろ	0.0	1.6	1.1	26.4	29.2
他はえ縄	0.7	9.7	20.6	39.7	70.7
沿岸いか	0.0	0.1	3.0	204.2	207.2
ひき縄	0.2	0.2	58.6	67.2	126.1
他釣	0.1	0.2	2.2	22.2	24.7
採貝等	0.4	0.3	5.5	4.8	10.9
かご筒	216.5	8.2	103.0	40.7	368.5
合計	3,964.9	237.2	1,366.8	1,165.5	6,734.3

次に廃棄漁具の処理状況を以下の表に示します。

沿岸漁業全体

(t)

	焼却等	埋立	熱回収	再生利用・再利用	譲渡	合計
市町村	66	10	4	0.2	0	81
業者委託	404	680	254	120	0	1458
自己処分	12	12	56	42	113	235
合計	482(27%)	702(40%)	315(18%)	162(9%)	113(6%)	1775

この表を見ると、処分方法では埋め立てが40%と最も多く、次いで「熱回収、再生利用・再利用、譲渡」の3つを合わせたリサイクル・リユースが33%、焼却等が27%でした。

沿岸漁業を沿岸漁船漁業と養殖業に分けてみると、以下ようになります。

誰に廃棄漁具の処分を依頼するかについては、沿岸漁船漁業と養殖業、いずれの場合も業者委託

が最も多く、続いて自己処分、市町村という順でした。一方、廃棄漁具の処分方法については、埋立が最も多く、続いて焼却等でした。「熱回収、再生利用・再利用、譲渡」といったリサイクル・リユース率は、沿岸漁船漁業で45%、養殖業で25%と、両者で大きな開きがありました。また、養殖業における廃棄漁具のリサイクル・リユースの9割は熱回収でした。

沿岸漁船漁業の合計

(t)

	焼却等	埋立	熱回収	再生利用・再利用	譲渡	合計
市町村	23(62%)	9(24%)	4(11%)	1(3%)	0	37
業者委託	111(22%)	231(45%)	64(12%)	107(21%)	0	513
自己処分	7(4%)	12(7%)	>1(1%)	30(19%)	112(69%)	162
合計	142(20%)	252(35%)	68(10%)	137(19%)	112(16%)	712

養殖業の合計

(t)

	焼却等	埋立	熱回収	再生利用・再利用	譲渡	合計
市町村	43(98%)	1(2%)	>1(>1%)	0	0	44
業者委託	292(31%)	449(48%)	191(20%)	13(1%)	0	945
自己処分	5(7%)	0	56(75%)	12(16%)	>1(2%)	74
合計	340(32%)	450(42%)	247(23%)	25(2%)	0.5(>1%)	1063

次に廃棄漁具の種類別に処理方法をみると、漁網等については、沿岸漁船漁業と養殖業いずれの

場合も埋立が最も多く、続いて焼却等が多いという結果でした。フロート・ブイ・浮子等については、沿岸

漁船漁業では再生利用・再利用が最も多く、養殖業では埋立及び焼却等で全体の9割近くを占めていました。ロープ・テグス等については、沿岸漁船漁業では埋立とリサイクル・リユースが同じ割合で、各々全体の4割を占めていました。養殖業では焼却等と

埋立が全体の6割、熱回収は全体の4割弱でした。魚箱等については、沿岸漁船漁業では再生利用・再利用と譲渡で全体の9割近くを占め、養殖業では熱回収が6割、焼却等が4割でした。

沿岸漁船漁業の合計

(t)

	焼却等	埋立	熱回収	再生利用・再利用	譲渡	合計
漁網等	88(31%)	156(55%)	13(4.5%)	20(7%)	7(2.5%)	284
フロート・ブイ・浮子等	3(12%)	6(24%)	4(16%)	11(44%)	>1(>1%)	25
ロープ・テグス等	35(17%)	85(42%)	45(22%)	29(14%)	10(5%)	204
魚箱等	16(8%)	5(2%)	6(3%)	77(39%)	95(48%)	199
合計	142(20%)	252(35%)	68(10%)	137(19%)	112(16%)	712

養殖業の合計

(t)

	焼却等	埋立	熱回収	再生利用・再利用	譲渡	合計
生簀網等	59(20%)	231(78%)	7(2%)	0	0	297
フロート・ブイ・浮子等	80(40%)	94(47%)	14(7%)	11(6%)	>1(>1%)	199
ロープ・テグス等	166(35%)	125(26%)	176(36%)	14(3%)	>1(>1%)	481
魚箱等	35(41%)	0	50(59%)	>1(>1%)	0	85
合計	340(32%)	450(42%)	247(23%)	25(2%)	0.5(>1%)	1063

次に処理者別の処理量を見ると、業者委託が沿岸漁船漁業で全体の7割、養殖業で全体の9割を占めていました。網についてみると、養殖業では処分を全て業者に委託していました。これは生簀網を新品に交換するときに、古網を網販売業者に引き取ってもらうことも関係していると思われます。フロート・ブイ・浮子等とロープ・テグス等については、業者委託

が沿岸漁船漁業で8割以上、養殖業では9割以上を占めていました。魚箱等の処分については、沿岸漁船漁業と養殖業では異なる傾向が見られ、沿岸漁船漁業では譲渡が5割、業者委託が4割弱を占めるのに対し、養殖業では自己処分6割、市町村が4割弱を占めていました。

沿岸漁船漁業の合計

(t)

	市町村	業者委託	自己処分	譲渡	合計	合計
漁網等	15(5%)	248(87%)	14(5%)	7(3%)	284	284
フロート・ブイ・浮子等	3(12%)	21(84%)	1(4%)	>1(>1%)	25	25
ロープ・テグス等	12(6%)	173(85%)	9(4%)	10(5%)	204	204
魚箱等	7(4%)	72(36%)	25(12%)	95(48%)	199	199
合計	37(5%)	514(72%)	49(7%)	112(16%)	712	712

養殖業の合計

(t)

	市町村	業者委託	自己処分	譲渡	合計	合計
生簀網等	0	298(100%)	0	0	298	297
フロート・ブイ・浮子等	9(5%)	187(94%)	2(1%)	1(>1%)	199	199
ロープ・テグス等	3(1%)	458(95%)	20(4%)	>1(>1%)	481	481
魚箱等	32(37%)	3(4%)	50(59%)	0	85	85
合計	44(4%)	946(89%)	72(7%)	1(>1%)	1063	1063

2 全国の漁協・漁業者から寄せられたコメント

(1) 漁具の紛失・流失について

① 紛失・流失した状況(事前に講じた対策を含む)

- サメによる漁具紛失
- 低気圧、台風による漁具紛失
- 漁船、遊漁船等による養殖場への侵入
- カキ養殖用管が残査にまざっていた為流失
- 漁獲物が狭い範囲に集中し、漁船が集中しテグス等が絡み紛失・流失
- 岩礁による網の損傷
- 悪天候によるフロートの損傷
- 水に溶けるスペーサーを開発・実験している。
また、人を配置し回収している

② 紛失・流失後に講じた防止対策

- サメが反応しない漁具へ改良(おもりを黒く塗る)
- 悪天候の際は事前に網上げ、十分に措置。
流出した漁具は可能な限り回収(海上、海中
搜索)
- 底曳チェーン等による流出漁具の搜索
- 他船のテグス等が絡まない様に見張り等を強化・回避
- 岩礁ポイントの情報共有、GPS情報等
- 早期の天候情報の入手と対策
- フロートカバーによる補強

(2) プラスチック資材の3Rの取組について

- 使用済み漁具の再利用(マグロテグス→ホタテ養殖、定置網→ホタテ干し作業)
- 廃プラは市町村が一括収集、廃棄(3割程度リサイクル)

- 漁網は主に防獣ネットとしての再利用が多い
- 廃ノリスをリサイクル業者に渡し、リサイクル
- 網に掛ったプラゴミの持ち帰り、廃棄
- 基本的に漁具が壊れるまでは利用(翌シーズン使うため洗浄等を実施 ノリ養殖)
- 使用済み魚箱の再利用
- 廃魚箱を溶融設備により全量を発泡ブロックに再利用
- 日常的に、フロート等のごみは拾い、持ち帰っている
- 自販機に設置したペットボトルの回収とリサイクル

(3) 漁業系廃棄物に係る協議会等の状況について

- 収集日を組合員に周知、埋め立て後、費用を請求
- 北海道のある漁協では協議会にて計画的に処理を実施
- 処分は2年に一度 プラは主に埋め立て
- 月1~2回の回収日を設け、分別したあと業者に処理を委託している。
- 底びき協議会の会費を漁網(古網など)の処分に充当
- 海の日に全組合員がごみの収集、焼却、リサイクルを実施
- 協議会で清掃を実施。集積・処理は行っていないが、各自治会で処分できない分は漁協がまとめて産廃処理
- 理事会で処理計画を協議



4. 令和5年度 海と渚クリーンアップ活動(海浜清掃活動)報告

未来に残したい、美しい浜辺・青い海

*全国から集まった海浜清掃活動報告をご紹介します。(ホームページに掲載したものの一部です)

*ホームページ <https://www.umitonagisa.or.jp/houkoku/>

*X(旧Twitter) <https://twitter.com/umitonagisa>

■北海道 北海道漁業協同組合連合会

令和5年5月13日

活動場所 いぶり中央漁協、
登別漁業

参加者 80名

ごみの量 人工物ごみ 200袋

コメント 定期的に清掃しているが、人目に付かない場所にごみが多かった。プラスチック類のごみが目立った。



コープさっぽろ

令和5年6月21日

活動場所 堀株海岸

参加者 60名

ごみの量 自然物ごみ 20袋
人工物ごみ 60袋

コメント 想定よりもゴミがたくさんあったようでお子さんも楽しみながらゴミ拾いをしているようでした。



北海道電力(株)

令和5年6月13日

活動場所 小樽ドリームビーチ

参加者 30名【北海道電力ネットワーク(株)札幌西ネットワークセンター、ほくでんサービス(株)札幌西業務課、札幌電気工事業協同組合西支部】

ごみの量 自然物ごみ 34袋
人工物ごみ 34袋

コメント 参加者は皆、汗をかきながら積極的に作業を行ない、多くのゴミを回収することができた。漂流ゴミが多く、近年問題となっている海洋ゴミ問題について実感させられた。今後も各種環境保全の活動により、地域貢献に取り組んでまいります。



奥尻町

令和5年4月15日

活動場所 奥尻全域

参加者 約600名

ごみの量 自然物ごみ 2,000袋

コメント 4月に行くことで、冬に流れ着くゴミを観光シーズンの前に綺麗にできて気持ちがいい。定期的に行わないとゴミが溜まり、景観が美しくないので清掃をできて嬉しい。



日釣振北海道地区支部・ (株)アイビック

令和5年10月15日

活動場所 苫小牧東港1本防波堤
砂浜

参加者 180名

ごみの量 200袋

コメント 全般的に水辺のゴミは減っているという報告をいただく実施場所が多かったですが、人気の出ている釣場はやはりゴミが増えているようです。ゴミの種類は、釣り人が出したものというよりは、家庭ゴミが多いという報告が目立ちました。



広尾町町内会連合会他

令和5年5月14日

活動場所 黄金道路(国道336号)
沿い海岸

参加者 181名

ごみの量 自然物ごみ 200袋分程度
人工物ごみ 200袋分程度

コメント コロナで長期間実施できなかったのが、思った以上にゴミがあった。海岸をきれいにできて良かった。今後も活動を継続したい。



■青森県 尻労漁業協同組合

令和5年5月27日

活動場所 尻労漁港周辺海岸

参加者 90名

ごみの量 自然物ごみ 約80袋
人工物ごみ 約130袋

コメント 毎年実施しており、今後も継続したい。



小泊漁業協同組合

令和5年5月30日

活動場所 小泊漁業全域及び一部
海浜域

参加者 27名【小泊漁業(役職員)、
漁協婦人部(部員)、
小泊清港会(建設業者他)】

ごみの量 自然物ごみ 38袋
人工物ごみ 100袋
ペットボトル・空缶・
空瓶ゴミ 28袋
その他 残土 350kg

コメント 当地域では、例年、いか釣り、刺網漁業等沿岸漁業の盛漁期を迎える前に小泊漁業周辺一斉清掃活動を実施している。しかし、今年度も引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、漁協役職員他27名で、5月30日に活動実施した。その結果、提供されたゴミ袋(166枚)にゴミの種類ごとに分別、集積場所へ搬入・処分となり、以前の環境保全となった。



小川原湖漁業協同組合

令和5年7月2日

活動場所 小川原湖畔全域

参加者 182名

ごみの量 人工物ごみ 210kg
(可燃ごみ 130kg
缶・ビン類 50kg
タイヤ 30kg)

コメント 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、過去3ヵ年、中止や規模縮小の中で実施してきた小川原湖クリーンデーは、今年5月の第5類への移行により、ようやくコロナ禍前の状態で実施することができましたが、ゴミの量は昨年よりも少ない結果となりました。生活の糧である漁場の環境美化と湖水浄化を図ることは我々漁師の努めですが、漁師だけの力では限界があり、上流域で生活する人々の協力も必要不可欠であります。地域一帯となった環境美化活動が積極的に行われるよう、今後とも事業の推進にご協力の程よろしくお願い申し上げます。



■秋田県 東北電力ネットワーク(株) 本荘電力センター

令和5年5月31日

活動場所 西目海水浴場

参加者 27名

ごみの量 自然物ごみ 15袋
人工物ごみ 20袋

コメント 流木等が多くゴミはそれほど無いように見えたが、集めると結構な量になった。故意に捨てたと思われるゴミはほとんどなく、今後も一人一人のマナーが大事だと感じた。



■宮城県 東松島市

令和5年7月1日

活動場所 野蒜海岸、月浜海岸、
大浜海岸

参加者 1,048名【宮城県東部土木事務所、宮城県東部地方振興事務所、航空自衛隊松島基地 幹部会、航空自衛隊松島基地 准曹会、陸上自衛隊曹友会、東松島市議会、宮城県議会、(一社)東松島市建設業協会、野蒜まちづくり協議会他全22団体】

ごみの量 自然物ごみ 250袋
人工物ごみ 150袋

コメント 昨夏、野蒜海水浴場で遊んで楽しかった。今年も来られるように、木の枝や貝殻など小さいものも丁寧に拾った。



■茨城県 大洗町

令和5年7月2日

活動場所 大洗サンビーチ、大洗海岸

参加者 2,000名

ごみの量 自然物ごみ 1,000袋
人工物ごみ 1,000袋

コメント 海水浴シーズンを前に気持ちよくレジャーを楽しんでいただける。町内全体がきれいになったため、この状態を維持していきたい。



静岡県 中部電力(株) 浜岡地域事務所

令和5年6月6日

実施場所 浜岡砂丘

参加者 103名(当社社員53名、
協力会社35名、御前崎
商工会青年部15名)

ごみの量 プラスチック容器やベッ
トボトル、空きビンなど
290kg

コメント 地域貢献行事の取り組
みとして、当社社員と協力会社社員の
ほか、御前崎商工会青年部、総勢103
名で御前崎市の浜岡砂丘において
海岸清掃を行いました。当日は、プラス
チック容器やペットボトル、空きビンなど
1トトラック1台分(290kg)のゴミを収
集しました。



愛知県 中部電力パワーグリッド(株) 半田営業所 半田電力センター

令和5年6月19日

活動場所 半田緑地公園付近

参加者 15名

ごみの量 自然物ごみ 15袋
人工物ごみ 15袋

コメント 清掃開始前はゴミがあま
り落ちていなく感じましたが、草の影や
側溝など間につかない場所に多くのゴ
ミがあり驚きました。地域の環境美化
に微力ながらも貢献できうれしく感じ
ました。



京都府 宮津市

令和5年4月16日

活動場所 天橋立公園一带

参加者 1,500名(地元事業者、
宮津市民、宮津市、京都
府、天橋立観光協会)

ごみの量 自然物ごみ 500袋
人工物ごみ 20袋

コメント ポイ捨てが少なかった。
天橋立を未来の子ども達に残すため
に清掃を続けている。集めた松葉が
肥料になって畑で使われていることを
初めて知った。



京都府漁業協同組合宮津支所

令和5年4月16日

活動場所 船越海岸一带、阿蘇海
岸一带

参加者 14名

ごみの量 自然物ごみ 20袋
人工物ごみ 25袋

コメント 船越海岸及び新川・三田
川海岸を清掃したが、藻・ペットボトル
が多くありました。



和歌山県 (一社)すさみ町観光協会

令和6年1月6日・7日

活動場所 すさみ海岸、見老津海
岸、江須崎

参加者 約65名

ごみの量 自然物ごみ 30袋
人工物ごみ 100袋

コメント 海岸にこんなにたくさんの
ゴミがあることに驚いた。外国からの
漂着ゴミもたくさんあった。



鳥取県

鳥取市農林水産部林務水産課

令和5年5月17日

実施場所 青谷漁業海岸ほか

参加者 546名 8団体

ごみの量 自然物ごみ 600袋
人工物ごみ 600袋

コメント ボランティアや地元関係
者が一体となって漁港海岸の清掃活
動を行った。これからもきれいな海岸を
みんなで守っていきたい。



島根県

松江市鹿島町御津

令和5年7月15日

活動場所 御津出張所付近

参加者 18名

ごみの量 自然物ごみ 10袋
人工物ごみ 10袋

コメント 御津の方が日ごろから清
掃活動に取り組んでおり、ゴミが少なく
きれいだった。



■山口県 尾国地区協議会

令和5年7月17日

活動場所 尾国地区海岸

参加者 62名

ごみの量 自然物ごみ 約120袋
人工物ごみ 3袋

コメント 毎年、清掃活動を継続しているが海岸の漂着物が多いと感じる。



■徳島県 阿南中央漁業協同組合

令和5年7月2日

活動場所 今津漁港・中島港・大渦漁港

参加者 76名

ごみの量 自然物ごみ 100袋
人工物ごみ 30袋

コメント たくさんの方に来ていただきまして、大変きれいになりました。



■香川県 四国計測工業(株)

令和5年12月13日

活動場所 香川県仲多度郡多度津町海岸寺周辺

参加者 14名

ごみの量 自然物ごみ 1袋
人工物ごみ 5袋

コメント 一見、ゴミが無さそうに見えた海岸も、砂浜に降りてみると缶やペットボトル、発泡スチロールなど、人工ゴミが多数ありました。特に粉碎された発泡スチロールが多くみられ、それらが海の生き物の生態を脅かしているという現実を実感しました。



四国電力 立地環境部

令和5年6月4日

活動場所 男木島海岸線

参加者 高松市 10名程度
地元住民他 20名程度
四国電力株式会社・四国電力送配電株式会社
30名程度

ごみの量 自然物ごみ 3袋
人工物ごみ 1袋
その他 流木等

コメント 漂流物が多く、日頃からごみの処理を適正に行うことの大切さを実感した。



株式会社四国総合研究所

令和5年6月8日

活動場所 汐入川の川岸およびその南側通路、他

参加者 200名

ごみの量 自然物ごみ 約220袋
人工物ごみ 約20袋

コメント 当該清掃エリアは、汐入川の河口に近いエリアのため、上流から流れ着くごみだけでなく、潮の満ち引きによって瀬戸内海に漂っているごみも当該エリアに流入し、漂着するような場所であるが、清掃後はごみが川岸に見当たらず、大変晴れ晴れとした気持ちになり、大変有意義な活動であることを実感させられる。



四変テック株式会社

令和5年5月12日

活動場所 二級河川 桜川/河口付近の高水敷及び歩道

参加者 21名

ごみの量 人工物ごみ 16袋

コメント 歩道からのポイ捨てと思われる、食品容器、ペットボトル、煙草の箱や吸い殻が多数散乱していたが、これらを一掃できた。今後も毎年、環境月間に、自治体の求める場所の清掃活動を継続していく。



■愛媛県

愛南町B&G御荘海洋クラブ

令和5年7月15日

活動場所 御荘湾・長州川

参加者 28名

ごみの量 自然物ごみ 60袋
人工物ごみ 60袋

コメント 暑い中での活動となりましたが、熱中症に注意しながらゴミの収集を行いました。参加者は、普段活動する場所をきれいにすることによって、環境保全に対する興味も湧いているようでした。



四国電力送配電(株)松山支社

令和5年6月15日

活動場所 堀江海岸

参加者 41名(四国電力(株)17名、四国電力送配電(株)17名、四電ビジネス7名)

ごみの量 人工物ごみ 15袋

コメント 全体的にごみの量が昨年よりも少し少なかったが、プラスチック

クが全体的に多いと感じられた。海水浴シーズンを迎える前に少しでもきれいな海を取り戻すことができた。



■高知県 橘浦漁業協同組合

令和5年7月16日

活動場所 高望・城ヶ鼻・大浦小浜・
椎ノ浦・崎谷

参加者 60名

ごみの量 自然物ごみ 2.5トン

人工物ごみ 25袋

その他 漂流ブイ：

3トン 車4台分

コメント 大雨があった割に漂流ブイは少なかったが、流木等は多かった。



■福岡県 福津市

令和5年6月11日

活動場所 福岡海岸、宮地浜海岸、
津屋崎海岸、恋の浦海岸

参加者 1,038名

ごみの量 自然物ごみ 不明

人工物ごみ 1,760kg

コメント みんなで海岸を綺麗にできてよかった。



糸島漁業協同組合船越支所

令和5年9月8日

活動場所 船越港内

参加者 103名

ごみの量 自然物ごみ 大多数

人工物ごみ 多数

コメント 大雨後の大潮の為、漂流ごみが多く人手を要した。



■長崎県

松浦火力発電所

令和5年7月6日

活動場所 大崎海水浴場

参加者 87名

ごみの量 自然物ごみ 22袋

人工物ごみ 5袋

コメント 酷暑を避けるため、晩夏から初秋で清掃する計画でしたが、残暑厳しかった。釣りやマリレジャーを楽しんだ後が伺えるゴミが多く、コロナ禍の終息を感じれるところもあった。しかし、やはりゴミが散乱している海は残念な光景で清掃活動後には美しい風景も嬉しく感じた。



■大分県 姫島村役場

令和5年7月29日

活動場所 姫島一円(周辺海岸)

参加者 757名

ごみの量 10,000kg

コメント 河川から流出したと見られる葦や流木、漂着したと見られるペットボトル等の撤去や公民館・公園・道路の草刈り、花壇の草取りを実施。今

年度も葦や流木、ペットボトル等が多く見られた。



大分県漁業協同組合 臼杵支店

令和5年7月17日

活動場所 臼杵市海岸全域 38km

参加者 480名

ごみの量 自然物ごみ 3,910kg

人工物ごみ 4,340kg

コメント 参加者の高齢化が進んでいるので流木など大きなゴミに関しては回収が難しくなってきた



■鹿児島県 いちき串木野市

令和5年7月23日

活動場所 市全域の海岸及び漁港

参加者 約1,000名

ごみの量 可燃不燃混合 約7,400kg

コメント 市全体で取り組んだことにより、海岸や漁港をきれいにすることができたことに加えて、環境について考える良い機会になった。





令和5年度 海の羽根募金

海と渚をきれいにを目指す「海と渚の環境美化活動」に皆様方からの温かいご支援をいただきました。心よりお礼申し上げます。
(個人の方からもたくさんのご支援をいただきましたが、団体名のみ記載させていただきます。)

- 落部漁業協同組合
- 長万部漁業協同組合
- 別海漁業協同組合
- 広尾漁業協同組合
- 雄武漁業協同組合
- 枝幸漁業協同組合
- 斜里第一漁業協同組合
- 青森県漁業環境保全振興協会
- 後潟漁業協同組合
- 外ヶ浜漁業協同組合
- 小泊漁業協同組合
- 重茂漁業協同組合
- 秋田県漁協女性部連絡協議会
- 中之作漁業協同組合
- 千葉県漁業協同組合連合会
- 富津漁業協同組合
- 勝浦漁業協同組合
- 東京都漁業協同組合連合会
- にいじま漁業協同組合
- 小笠原島漁業協同組合
- 小坪漁業協同組合
- 魚津漁業協同組合
- 石川県漁業協同組合小本支所
- 越前町漁業協同組合
- 豊浜漁業協同組合
- 津名漁業協同組合
- 室津漁業協同組合
- 姫路市漁業協同組合白浜支所
- 南あわじ漁業協同組合
- 新宮漁業協同組合
- 岡山市漁業協同組合
- 尾道漁業協同組合
- 下蒲刈町漁業協同組合
- 戸戸漁業協同組合
- 阿多田島漁業協同組合
- 岩国市漁業協同組合
- 牟礼漁業協同組合
- 鴨庄漁業協同組合
- 和田島漁業協同組合
- 椿泊漁業協同組合
- 愛媛県漁業協同組合新居浜支所
- 愛媛県漁業協同組合魚島支所
- 福岡県漁業協同組合青壮年協議会
- 福岡市漁業協同組合能古支所
- 佐賀県有明海漁業協同組合
- 宇久小値賀漁業協同組合
- 河内漁業協同組合
- 倉岳町漁業協同組合
- 大草漁業協同組合牛深総合支所
- 滑石漁業協同組合
- 大分県漁業協同組合総務部
- 大分県漁業協同組合津久見支店
- 鹿児島県漁業協同組合連合会
- 東松島漁業協同組合
- 瀬戸内漁業協同組合
- 全国漁業共済組合連合会
- 香川県漁業共済組合
- 愛媛県漁業共済組合
- 西日本信用漁業協同組合連合会
- 長崎県信用漁連職員組合
- 九州信用漁業協同組合連合会宮崎統括支店
- 全国共済水産業協同組合連合会
- 全国共済水産業協同組合連合会大分県事務所
- 全漁連釧路油槽所
- 全漁連八戸油槽所
- 全漁連東北事業所・仙台駐在
- 全漁連境港油槽所
- 全国漁業協同組合学校
- (一財) 漁村教育会
- (一財) 漁港漁場漁村総合研究所
- (一財) 中央漁業操業安全協会
- (一財) 日本鯨類研究所
- (一社) 海外まき網漁業協会
- (一社) 漁業情報サービスセンター
- (一社) 水産土木建設技術センター
- (一社) 責任あるまぐろ漁業推進機構
- (一社) 全国まき網漁業協会
- (一社) 全日本漁港建設協会
- (公財) 海洋生物環境研究所
- (公財) 海洋生物環境研究所中央研究所
- (公財) 鳥取県栽培漁業協会職員有志
- (公財) 海洋生物環境研究所実証試験場有志一同
- (公社) 全国豊かな海づくり推進協会
- 全国遠洋沖合漁業信用基金協会
- 全国さんま棒受網漁業協同組合
- 全国市町村水産業振興対策協議会
- (国研) 水産研究・教育機構釧路拠点
- (国研) 水産研究・教育機構水産技術研究所
- (国研) 水産研究・教育機構水産技術研究所
- (国研) 水産研究・教育機構水産資源研究所
- (国研) 水産研究・教育機構水産技術研究所神栖拠点
- (国研) 水産研究・教育機構水産技術研究所南勢拠点
- (国研) 水産研究・教育機構水産技術研究所八重山庁舎
- (国研) 水産研究・教育機構開発調査センター
- 伊勢湾海運 (株)
- (株) 伊藤園
- (株) エルコム
- (株) カケル
- 佐世保魚市場 (株)
- サントリービバレッジソリューション (株)
- ジェイコインベイ
- 酒田曳船 (株)
- (株) スパイスサーフ 海洋記念葬シーセレモニー
- ソフトバンク (株)
- (株) 泰州
- ダイードドリンク (株)
- (株) チエノフ情報システムズ
- 東亜建設工業 (株) 君津作業所
- 東京魚類容器 (株)
- 東洋漁業 (株)
- 東洋製罐グループホールディングス (株)
- 日豊化学産業 (株)
- 日本ソリッド (株)
- (有) 仁徳海運
- 横浜冷凍 (株)
- 英理女子学院高等学校JRC部
- 上越市立城西中学校
- 静岡県立焼津水産高等学校 家庭ボランティア部
- 日本福祉大学付属高等学校2年B組
- ガールスカウト新潟県第17団
- 北海道水産林務部水産局水産振興課
- 青森県水産振興課
- (地独) 青森県産業技術センター食品総合研究所
- (地独) 青森県産業技術センター水産総合研究所
- 函館水産試験場
- さけます・内水面水産試験場
- 岩手県水産振興課・海区漁業調整委員会事務局
- 岩手県水産技術センター
- 宮城県水産林政部水産業基盤整備課
- 宮城県水産技術総合研究センター気仙沼水産試験場
- 秋田県農林水産部水産漁港課水交会
- 福島県農林水産部水産課
- 茨城県農林水産部漁政課
- 栃木県水産試験場
- 千葉県庁漁業資源課
- 神奈川県水産課
- 新潟県農林水産部水産課
- 富山県水産研究所
- 富山県農林水産部水産漁港課
- 石川県農林水産部水産課
- 石川県水産総合センター
- 福井県内水面総合センター清流会
- 静岡県経済産業部水産・海洋局水産振興課
- 愛知県水産試験場
- 愛知県農業水産局水産課
- 三重県水産研究所鈴鹿水産研究室
- 三重県農林水産部水産振興分野
- 鳥取県農林水産部水産振興局
- 島根県農林水産課
- 島根県農林水産部水産課
- 徳島県水産振興漁業調整課部会
- 香川県農政水産部水産課
- 愛媛県庁水産課
- 愛媛県水産課協同会
- 福岡県農林水産部水産局漁業管理課
- 福岡県農林水産部水産局水産振興課
- 福岡県農林水産部水産振興課
- 福岡県水産海洋技術センター
- 福岡県水産海洋技術センター有明海研究所
- 佐賀県玄海水産振興センター
- 佐賀県有明水産振興センター
- 熊本県水産研究センター
- 大分県漁業管理課
- 大分県農林水産部漁業管理課
- 大分県農林水産部研究指導センター水産研究部
- 宮崎県農政水産部水産局漁業管理課
- 宮崎県水産試験場
- 宮崎県水産試験場
- 沖縄県農林水産部水産課
- 水産庁漁政部漁業保険管理官
- 水産庁漁政部漁政課
- 水産庁漁政部水産経営課
- 水産庁資源管理部管理調整課
- 水産庁資源管理部漁業取締課
- 水産庁資源管理部国際課
- 水産庁増殖推進部漁場資源課
- 水産庁増殖推進部栽培養殖課
- 水産庁研究指導課
- 水産庁仙台漁業調整事務所
- 水産庁新潟漁業調整事務所
- 水産庁境港漁業調整事務所
- 水産庁瀬戸内海漁業調整事務所
- 水産庁九州漁業調整事務所

あ と が き

令和6年能登半島地震により被災された方々にお見舞い申し上げますとともに、少しでも早く復興することを祈念いたします。令和5年度は能登半島に行く機会が何度かありました。メッセージ24号に載せた千枚田の写真はその時に撮影したものです。石川県の漁協は本所も支所も廃漁具の処理に

は熱心で、処理業者を探したり、漁具の素材ごとにフレコンに分別したり、同じ長さにロープを切っていたりと大変勉強になりました。石川県は県下一斉で海岸清掃に取り組んでいます。能登半島地域は例年通り清掃活動に取り組むようです。(福田)

14 海の豊かさを
守ろう



15 陸の豊かさも
守ろう

